

受注企業動向調査結果

-2013.11-

- 調査時点 平成25年10月調査（平成25年9月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 100社（回答率：66.7%）

<業種内訳>

一般機械器具	23社
金属	20社
プラスチック	7社
精密機器	10社
縫製	6社
鉄鋼・非鉄	9社
電気機器	18社
輸送用機器	7社
計 100社	

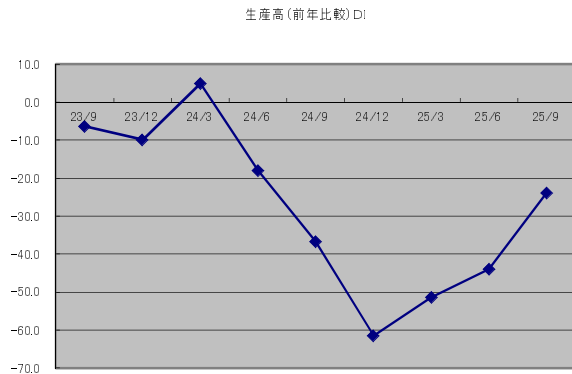
DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

生産高（対前年同月比）DI

3期連続での改善も、未だマイナス値

【概況】

生産高DIは▲24.0となり、前回の▲44.0から20.0ポイント増と改善した。
3期連続の改善と回復の動きが見られるが、DI値は未だ低水準にとどまっており、円安により輸出製品の伸びはあるものの、内需産業は未だ厳しい状況が続いている。



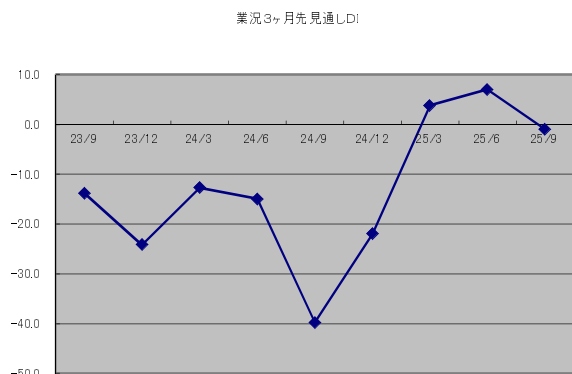
	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
生産高(対前年同月比)DI	▲6.4	▲9.9	4.9	▲18.0	▲36.7	▲61.5	▲51.4	▲44.0	▲24.0

3ヶ月先見通しDI

3期ぶりにマイナス値へ

【概況】

業況3ヶ月先見通しDIは▲1.0となり、前回の7.0から8.0ポイント減でわずかに悪化した。
昨年12月以来、3期ぶりにマイナス値へ転落した。



	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
業況3ヶ月先見通しDI	▲13.8	▲24.2	▲12.7	▲15.0	▲39.8	▲22.0	3.8	7.0	▲1.0

受注単価D I

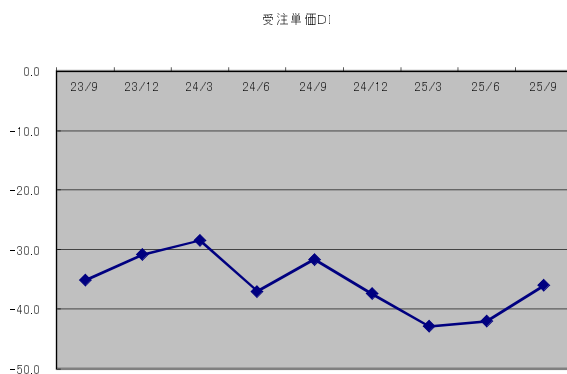
低調に推移

【概況】

受注単価D Iは▲36.0となり、前回の▲42.0から6.0ポイント増とわずかに改善した。

受注単価は低調に推移しており、この2年間厳しい状況が続いている。

グローバル化が進む中で、海外での現地生産・調達を進める企業が増加しており、今後も受注単価は厳しい状況が続くと見られる。



	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
受注単価D I	▲35.1	▲30.8	▲28.4	▲37.0	▲31.6	▲37.4	▲42.9	▲42.0	▲36.0

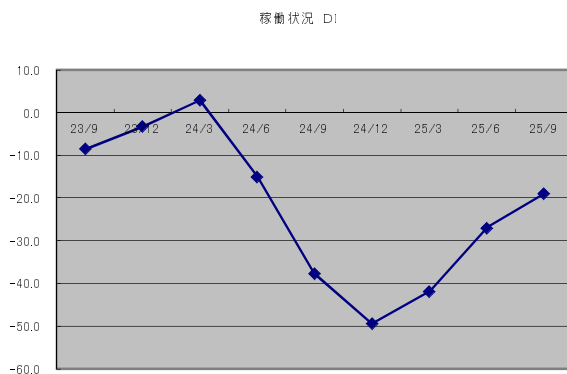
稼働状況D I

生産高に同調し改善

【概況】

稼働状況D Iは▲19.0となり、前回の▲27.0から8.0ポイント増とわずかに改善した。

生産高D Iの改善に合わせ、稼働状況D Iも3期連続で改善した。



	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9
稼働状況D I	▲8.5	▲3.3	2.9	▲15.0	▲37.8	▲49.5	▲41.9	▲27.0	▲19.0

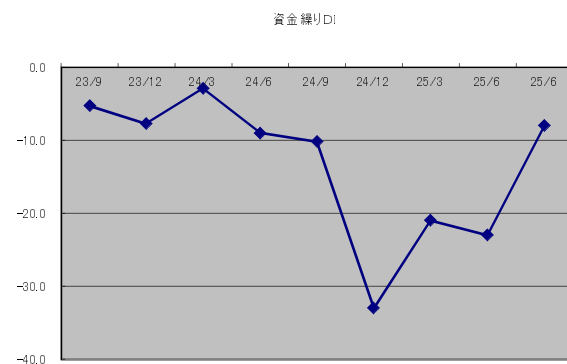
資金繰りD I

依然としてマイナス値から抜け出せず

【概況】

資金繰りD Iは▲8.0となり、前回の▲23.0から15.0ポイント増と改善した。

生産量D Iや受注単価D Iの改善と合わせ、資金繰りD Iも改善となったが、原材料価格等の高騰など、コスト増加がマイナス値を抜け出せなかった要因か。



	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/6
資金繰りD I	▲5.3	▲7.7	▲2.9	▲9.0	▲10.2	▲33.0	▲21.0	▲23.0	▲8.0